神社の杜（六十三）

『これも世のため・人のため』

片柳　茂生

今年になって神社では、参道や神社周辺に立つ数十本の杉や檜などを伐採しました。どの樹も樹齢四百年はくだらないでしょう。中でも宝物殿の下参道脇にあった杉は、目通り（大人の目の高さの位置で幹の太さを測ること）は約四メートル、樹高だって二五メートルは下らないという大きな樹です。

ムササビの観察をしていた時に、拝殿脇の木から宝物殿の屋根を飛び越えてこの杉まで滑空するムササビの姿を何度か見たことがあります。

ムササビにとっても便利で頼りになる杉であったに違いありません。

数年前から、少しずつ参道階段の方に傾いているのではと神主の間では話が出ており、このままにして倒れてしまったら参拝者に被害が及ぶことも懸念されます。そうなってからでは大変と言う事になり、惜しみながらも伐採という決断に至りました。そして今年ついに伐採に踏み切ることになったのです。

何と言っても大きな木です、根元から一気にバッサリ！何て訳にはとてもいきません。準備から運び出しまで数週間かかりました。

まずは枝を落とすのですが、枝とは言えかなりの太さです。これをすべて落とすのも一苦労、さらに梢から二メートルから三メートル位の長さで何回にも分けてワイヤーで一本一本吊るしながら伐ります。一日に一本伐るのがやっとです。しかも伐る人は半日木に登ったままの状態で伐るのです。幹の周りを巧みに回りワイヤーを掛けそして切る位置や方向を決めチェーンソーを入れます、まさに空氏とはよく言ったものですが見ている方はハラハラドキドキの状態です。

こうして伐られたものは軽トラックで運搬？いえいえそんな訳にはいきません、すべてヘリコプターで運びました。後に業者に聞いた話ですが、この大杉五回以上は雷が落ちているだろうとのことでした。落雷に耐えよく五百年も生きていたものです。

参道の杉も同時に伐採しました。ケーブルカーの交換するところの少し下、ケーブルカーから見えるカーブのところです。この個所は七本の樹勢の弱くなった杉を伐採しましたが、これは、もし倒れてしまったら御岳山の命綱であるケーブルカーを壊してしまうからです。さらにケーブルカーを降りて神社に向かう参道の途中にあるミズナラも数本伐りました。これは楢枯れの被害にあい、落枝や倒木による被害から参拝者を守るために伐採しました。

今年の伐採によって、山の様相は少し変化し、ムササビやモモンガそしてフクロウなど生き物にとっては少し住み辛くなったかもしれません。でもこれも世のため人のためです、お許しください。でも次世代のために植栽の事もちゃんと考えていますよ。ご安心を。

イラスト：たいやきジロー

あとがき

「慎みて怠ることなかれ」とは日本武尊が東征の折、神宮を参詣された際に倭姫命より授けられた言葉です。

発生確率が上昇した巨大地震、激しさを増す気候災害、終わらない民族紛争など重大な事象が繰り返し起きています。これらを前にして人間が何をできるかを考えた時、冒頭の「慎莫怠也」（原典「古語拾遺」）との言葉が浮かびました。

自然に対しても他者に対しても謙虚に、あきらめることなく努力して生きていくこと。大神の言葉の解釈に差異はあるかもしれませんが、現代社会に生きる私達にとって大切な精神であると思います。

最後に、この半年間を無事に過ごせたことを御嶽大神に感謝し、毎年丁寧に教授下さる先生方、ご奉納頂きました皆様、各種祭典や行事に御協力・御協賛下さいました崇敬者の皆様、各所関係機関の皆様に厚く御礼申し上げます。また鶴巻育子様玉稿を有難うございました。

令和六年　九月二十九日発行
〔年二回発行・非売品〕
編集　武蔵御嶽神社
TEL ○四二八（七八）八五○○
FAX ○四二八（七八）九七四一
http://www.musashimitakejinja.jp/
印刷　㈱成和印刷

武蔵御嶽神社
公式ＳＮＳ

HP　facebook

X (Twitter)　instagram

公式
ホームページ